

『熊町小学校に残された、 あたりまえの日常を世界の教訓に』



東日本大震災被災地などの各地で、災禍の後世に伝えるための遺構整備が行われており、大熊町の中間貯蔵施設内における施設でも、検討がはじまりました。「保存」か「解体」か単純な二択ではなく、より多様な意見や想いが共有されることを目指して、意見交換の機会として開催します。

「大熊町文化財保存活用地域計画策定協議会」会長を務められた西村さんから、旧熊町小学校に残された価値についてご紹介いただきます。また、各地の保存・活用の事例も紹介いただく予定です。

7/12(日)

10:20-12:20 事前フィールドワーク

14:00-16:30 ワークショップ

開催場所：Link る大熊 多目的ホール

☆開催場所：Link る大熊 多目的ホール

☆参加無料

☆右上のQRコード又は、メールにて申し込みください。



一般社団法人 大熊未来塾（担当：義岡）

〒979-1303 福島県双葉郡大熊町大熊川字久麻川80番地

電話 080-1472-3763 / メール okuma.future@gmail.com



西村 幸夫さん

（東京大学名誉教授 / 國學院大学名誉教授）

東京大学助教授、教授、國學院大学観光まちづくり学部長などを歴任。専門は都市計画。日本イコモス国内委員会委員長、国際遺産記念物会議（ICOMOS）副会長、大熊町文化財保存活用地域計画策定協議会会長などを務めた。主な著作に『都市から学んだ10のこと』（学芸出版社、2019年）、『県都物語』（有斐閣、2018年）など。

※本事業は、大熊未来塾が取り組む3.11メモリアルネットワーク基金助成事業、Civic Force「NPOパートナー協働事業」として実施します。
※本事業は、福島大学が受託する福島県委託事業として実施します。

主催：おおくまふるさと塾、（一社）大熊未来塾、福島大学地域未来デザインセンター 後援：大熊町、大熊町教育委員会